

家族と生い立ち（略伝）

マルク・マリー・ド・ロは、フランスの貴族の家の次男として、1840年に生まれました。彼は、バイユ大神学校を卒業後、しばらくの間助任司祭として働いていました。それから1年後、彼はパリ外国宣教会に入会し、東へと宣教師として旅立ちました。

彼は、10年間、大浦天主堂の石版印刷所と横浜で働いたあと、外海の主任司祭に任命されました。そこで彼は、フランスで学んだ建設、医学、農業、食料生産などの技術を生かした旧出津救助院などの施設を設立し、外海の人々のために尽くしました。

彼は、日本に来る際、両親から贈られた約240000フランを投資し、2つの教会を建設し、道路を直し、外海の人々に医療援助を行ったあと、ド・ロは74歳でなくなりました。彼は、自ら設計し建造した出津共同墓地に埋葬されました。出津での活動に尽力したド・ロは、フランスに帰ることはありませんでした。

マルク・マリー・ド・ロ神父 略伝

1840年 3月26日フランス・カルバドス県バイユ郡ヴォスロワール村に生まれる。

1865年 バイユの神学校を卒業(司祭叙階)。

1866年 カン市聖ジュリアン教会の助任司祭となり、福祉活動を行う。

1867年 パリ外国宣教会に入会。

1868年 長崎に上陸、大浦天主堂に石版印刷所を設ける。

1871年 横浜に転籍、横浜造船所の小聖堂チャブレンを兼務し、石版印刷所を設ける。

1873年 長崎に戻って大浦天主堂付き司祭となり、印刷事業をはじめ。

1874年 浦上で赤痢の救護にあたる。羅典神学校建設着工。

1875年 羅典神学校完成。

1878年 「オラシヨ 並ニ ヲシヘ」を印刷。

1879年 外海に主任司祭として赴任。出津に聖ヨゼフ会を設立。

1881年 出津教会、授産場建設着工。青年教育所を開設。

1882年 出津教会完成。

1883年 救助院を設立。授産場が完成。素麺・パンの製造、製糸、機織りなどの授産事業を本格的に始める。伝道所も開設。

1884年 西出津の変岳裏に野原二町歩を購入、開拓をはじめめる。

飢餓による貧民救済を開始。

1885年 診療所、薬局を開設(外海地方に腸チフス流行)。牧野の渡瀬川に水車による製粉工場を建設。砥石崎に防波堤を作る。鱚網工場完成。

1886年 田平、平戸への紐光の開拓移住に尽力。鱚網工場を保育園とする。

1887年 大村竹松郷に貧民救済のための土地を購入。

1891年 赤痢が発生。避病舎を設置し、青年救護隊を結成。

1893年 大野教会を建設。

1895年 県道改修工事を行い、飢餓に苦しむ村民に食料・労賃を与える。

1896年 出津教会増築(第2期/93~96年)

1898年 出津の野道に共同墓地を造成。

1899年 マカロニ工場完成。

1901年 変岳(大平)に作業所を設け、茶園を開いて農業の振興に努める。

1904年 製粉工場を救助院へ移築。

1909年 出津教会、玄関部、鐘塔の増築(第3期)

1910年 救助院を至風木舎と改名。長崎大浦天司教館の設計・建築監督を行う。

1911年 養生のため出津より大浦司教館に転任。

1914年 11月7日長崎南山手で帰天(逝去)、野道の墓(現出津共同墓地)に葬られる。